

令和6年度薩摩中央高等学校におけるCSポートフォリオ診断結果について

1 回答者

- (1) 学校運営協議会委員 7人
- (2) 教職員 16人
- (3) 生徒 147人

2 回答期限

令和7年3月10日

3 CSポートフォリオの内容

CSポートフォリオは、CSに関わる各主体へのアンケートによって測定した結果に基づいて診断する自己診断ツール。児童・生徒の資質・能力等の「CSの成果（目標）」の測定に加え、その要因となる「学校運営協議会（組織）の状態」や「関係者の意識・活動」も定量的に可視化することができ、CSの運営状態やCSの生み出す成果を、今後の学校運営や協働活動の改善に向けた「次なる一手」の検討につなげることができる。

● CSポートフォリオアンケート項目【3主体×3要素で構成】

	協議会委員	教職員	児童・生徒
CSの効果		・授業力の向上 ・生徒指導, 生活指導の負担の減少 ・保護者, 地域住民への信頼の高まり ・保護者対応の負担の減少	・子供が享受する機会の変化 ・資質, 能力の向上 ・地域への愛着, 貢献意識の向上
関係者の意識活動		・協議会の意義の理解 ・地域住民, 保護者との交流 ・授業, 生徒指導・生活指導における地域, 保護者との連携	
協議会運営の状態	・自律性 ・熟議度 ・共有性	・持続性 ・実効性 ・対等性	

● 評価結果を読み解く視点

- ・ 全ての視点で改善・100%を目指すのではなく、注目したい指標を選択する。
- ・ 実際のとりくみや現場の実感と結び付けて解釈する。
- ・ 組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりや関連性を捉える。

4 結果

(1) 学校運営協議会委員

対等性（協議会参加者の間で対等な議論ができているか）、実効性（協議会で決まったことが実行までつながっているか）の要素は、肯定的な意見が多かった。

熟議度（議題の確認や承認だけでなく時に見直しを行うなど、深い議論ができているか）、共有性（周知・共有されているか）の要素は、肯定的な意見が少なかった。

【アンケート結果】

協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	100%
協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	100%
協議の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	85.7%
協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある	71.4%
当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	57.1%
地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	28.6%

(2) 教職員

「協議会の意義の理解」の要素は、肯定的な意見が多かった。

「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」の要素は、肯定的な意見が少なかった。

【アンケート結果】

協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	81.3%
協議会での協議・決定事項に関心がある	81.3%
協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	75.0%
子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	18.8%
地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	18.8%

(3) 生徒

「やり抜く力」、「自己肯定感」の要素は、肯定的な意見が多かった。

「地域における大人との関わり」、「地域における異年齢の関わり」、「地域貢献意識の高まり」の要素は、肯定的な意見が少なかった。

【アンケート結果】

学校や地域（さつま町）でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある	68.7%
困ったことがおきても、どうにかできると思う	77.6%
自分はやればできる人間だと思う	72.8%
学校や家の近所で、地域（さつま町）の人のお手伝いをする	21.1%
地域（さつま町）の小学校や中学校の児童・生徒と交流する	36.1%
地域（さつま町）のために自分には何ができるか考えることがある	32.0%

(4) 回答者からの意見等

【質問】 学校運営協議会に関して、御意見等ありましたら記入してください。

【意見】

〈委員〉

- ・ 今年度は、学校側は敷いて下さったレールの上を走っている感じでした。かといって、協議会の主体性を問われるとそれはそれで、年3回の協議会以外に、かなりの労力を費やす必要が出てきます。難しいところです。
- ・ 校長先生以下先生方が良くまとまっており、生徒達への指導も素晴らしいのでは、と評価しています。高校教育では少し早いかも知れませんが、DEI の概念が近年注目されていますが、教育現場では必要ないでしょうか？
(DEI…多様性, 公平性, 包括性)
- ・ 学校運営協議会の設置初年度だったため、まず学校行事や授業等参観し高校の内情を知ることによって高校への関心が高まりました。そのため、質問事項については、ほとんどあてはまらないという回答になっています。
探求活動で地域との交流がありますが、それに要する活動経費の増額や県でコーディネーターを設置し高校へ派遣いただくような取り組みをご検討いただくことはできませんか。
- ・ 今年1年目という、始まったばかりの組織でしたが、1年間携わる事ができ、すごく勉強になりました。この経験を活かし、今後も子供達の学習しやすい環境造りを、地域や保護者との協力等を通して、良くしていけたらと思っています。
1年間ありがとうございました！
- ・ 委員就任を通じて、学校運営協議会を知りましたが、素晴らしい制度だと思います。薩摩中央高校もモデル校であったということもありますが、校長をトップに教頭教員が一体となって取り組んでおり、子どもたちのためにも良い教育を地域とともに創りあげて行こうとする強い意欲とその意欲に負けない行動力を感じました。また、それをサポートする中村課長をはじめとする県の方々も適宜適切な説明等の素晴らしい事業遂行であったとともに、何より学校にも負けない強い熱意を感じて素晴らしかったです。私自身委員としては拙い発言ばかりでしたが、参画させていただいたことで本当に勉強になり感謝しております。本事業がさらに発展的に広がっていくことを切に願っております。ありがとうございました。

〈教職員〉

- ・ 実際に学校発展のために出来ることを提案してほしい。地域がこの学校に望むことをもっと詳しく正確に知りたい。

〈生徒〉

- ・ 読書時間を長くして
- ・ もうちょっと薩摩中央高校の宣伝が必要だと思います。例えば若者がよく見るSNSで（Instagram など）するのが良いと思う。

5 令和7年度に向けて

(1) 学校運営協議会委員

導入初年度、委員が学校運営協議会関係者の一員としてコミュニティ・スクールの制度や趣旨を理解し、地域とともにある学校づくりに向けた協議が行われていた。

学校と地域が一体となった学校運営協議会の運営を一層進めるため、企画段階からの議論や、振り返りを行う機会を設けることが重要である。

【次年度に向けた具体的取組】

- ・ 学校運営協議会実施回数の増加（予算要求：6回分）。
- ・ 教職員や生徒を交えた熟議の実施。

(2) 教職員

学校運営協議会に関心をもち、「協議会での協議によって、何か役割を与えられたら果したい（62.5%）」と考えている教職員が多い。

「学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある（25.0%）」と考えている教職員は少ない。教職員と委員が意見を交わす場を設ける等、委員と教職員の相互理解を促し、連携・協力しやすい関係性を構築することが重要である。

【次年度に向けた具体的取組】

- ・ 学校運営協議会に関する役割を教職員で分担する等、多くの教職員が学校運営協議会に関わる機会を設定。
- ・ 教職員や生徒を交えた熟議の実施。

(3) 生徒

地域行事への参加率が高く、「地域（さつま町）が好きである（73.5%）」と思うなど、地域（さつま町）について好意的な印象をもっている生徒が多い。

好意的な印象に比べ、「地域のために自分には何ができるか考えることがある（32.0%）」「学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい（43.5%）」と考えている生徒は少ない。生徒が委員と意見を交わす場を設ける等地域への愛着をより醸成し、地域の人材として当事者意識を育むことが重要である。

【次年度に向けた具体的な取組】

- ・ 学校運営協議会委員による出前授業等の拡充。
- ・ 教職員や生徒を交えた熟議の実施。

まとめ

令和6年度薩摩中央高等学校におけるコミュニティ・スクールは、学校長のリーダーシップのもと、地域とよりよい関係を構築し、地域人材や資源等を活かした協議が行われていた。そして、協議をもとに地域や企業の参画・協力を得ることで、多様な地域学校協働活動が展開される等、「地域とともにある学校づくり」が推進された。

学校運営協議会の趣旨や取組をいかに学校全体や地域住民に波及させるかが、今後の運営において重要である。

「熟議」のすすめ方について

熟議とは、「熟慮」と「議論」を重ねながら多くの人（教職員・保護者・地域住民等）の意見を反映させて、課題解決を目指す対話である。熟議を通して、学校と地域等がビジョンや課題・情報を共有することで、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まり、当事者意識をもった教育活動へとつなげることができる。

熟議の効果

- ・ 各々の役割が明確化する
- ・ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
- ・ それぞれの役割に応じた解決策が洗練される
- ・ 個々人が納得して自分役割を果たせるようになる

熟議のテーマ（例）

- ・ 児童・生徒が、学校や地域でどう育ってほしいか
- ・ 児童・生徒の「学力」を向上させるには
- ・ 「いじめ」の防止に向けて
- ・ 「郷土学習」「探究活動」について
- ・ 学校と地域が一緒にやれることとは
- ・ 学校と地域の合同開催による行事について
- ・ 児童・生徒の「地域貢献活動」とは
- ・ 学校と地域が連携した「防災活動」について
- ・ あいさつ日本一●●町を目指して
- ・ 地域の力を、どう児童・生徒の教育に生かすか

熟議の工夫

◎ 教職員や児童・生徒が参加した熟議の実施

学校運営協議会委員のみならず、教職員や児童・生徒が参加する熟議を実施。

教職員や児童・生徒が参加することで多様な意見が出されるとともに、教職員や児童・生徒に当事者意識や主体性が育まれる。

小学校 ― 学級代表、学年代表、児童会役員など
 中学校 ― 学級代表、学年代表、生徒会役員など
 高等学校 ― 学級代表、学年代表、生徒会役員、学科代表など

◎ 拡大学校運営協議会の実施

同じ中学校区内における小学校が合同で学校運営協議会を開く等、校区の枠を超えて学校運営協議会を実施。拡大学校運営協議会で出た意見を、各学校における学校運営の参考とする。

近隣の学校とは課題が類似している場合も多く、他校における取組等は互いに参考となる。また、近隣学校との関係が構築され、広く連携した活動につながる。

熟議の進め方

STEP 1：準備【各々の考えをまとめる，情報を共有する】

- 今回の熟議のテーマや目的・ゴールを設定する。
- 学校や地域における「課題」や「目指す姿」を取り上げ，まず共通に知っておくべき情報を共有する。
- 保護者，教職員，地域住民等が，個々人や各々のコミュニティで「課題」や「目指す姿」について考える。

STEP 2：熟議の実施【解決策等について熟慮する，討議を深める】

- 4～7人程度のグループで「気楽」に「真面目」に議論を始める。
(例：自己紹介 → 意見をたくさん出す → 方向性を定めて話し合う)
- 参加者の意識や考え等を共有し，原因や解決策，活動を模索する。
- 参加者の意見を引き出すために「ファシリテーター」を中心に，模造紙やホワイトボードを活用し，議論の内容を「見える化」する。
(例：k J法，セブン・クロス法，希望点列举法 等)

STEP 3：熟議後【結果を共有する，具体的な活動を検討する】

- 各グループの代表者が熟議の結果を発表し，共有する。
- 熟議の結果から，それぞれの役割に応じた活動を検討する。
(学校運営協議会の各部会や，各コミュニティで意見をまとめる)

「熟議」で提案されたプランを，課題解決や目標達成に向けた具体的な取組につなげる。

◎ 具体的な取組…学校・地域それぞれでの実施や，これまでの活動の整理も含む

熟議の例【目指す姿】地域ぐるみによる防災体制の構築

【熟議のテーマ】防災教育の充実と防災意識の高揚について



【教職員】
学校では避難訓練や専門家の講話をとおして防災教育をしています

【CS委員長】
学校と地域で連携できないだろうか

【地域の代表者】
地域の防災活動は参加率が下がっているのが悩みです

【保護者】
登下校中に災害が起きたら大丈夫だろうか…

【地元企業】
災害時の備えを充実させたいですね

【具体的な取組】学校・地域・家庭の合同開催による防災教育

- | | | |
|--------|---|-----------------------------|
| 学校 | — | 生徒・地域住民・保護者が参加する防災教室を開催 |
| 地域・保護者 | — | 防災教室への参加呼びかけ，学校外における危険個所の確認 |
| 企業 | — | 防災グッズや防災資機材の紹介・提供 |

地域とともにある学校の実現に向けたコミュニティ・スクールの「見える化」ポートフォリオ【薩摩中央高等学校_令和6年度】

地域	鹿児島県薩摩郡さつま町
学校名	薩摩中央高等学校
児童・生徒数	207 名

回答者数	
学校運営協議会	7 名 教職員
生徒	147 名 (任意調査)

地域（さつま町）の特性・概要
人口1.8万人。過疎化，少子高齢化が進む中，町は助成制度を設けるなど，学校へ様々な支援をしている。

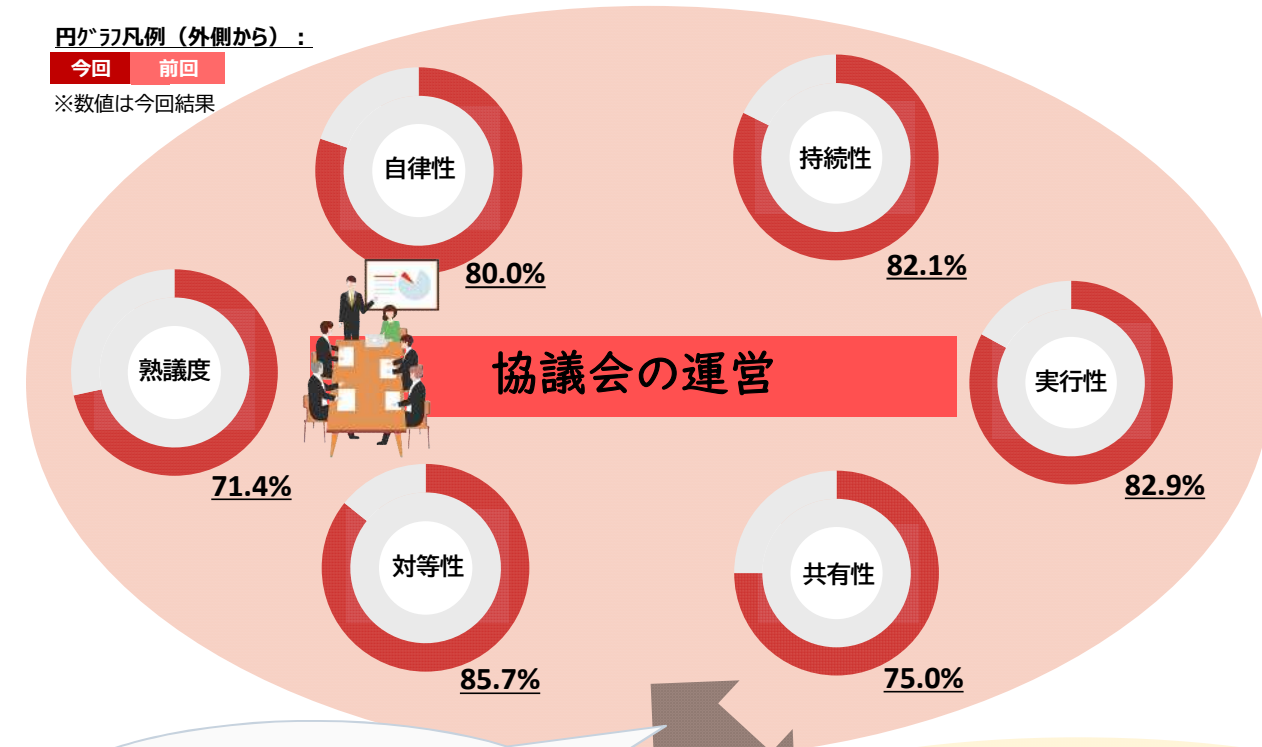
CS設置のねらい
学校と地域住民の連携・協働を進め，一体となって子どもたちの成長を支えていく体制を構築する。

棒グラフの凡例
— 実線：今回の結果
- - - 点線：前回の結果

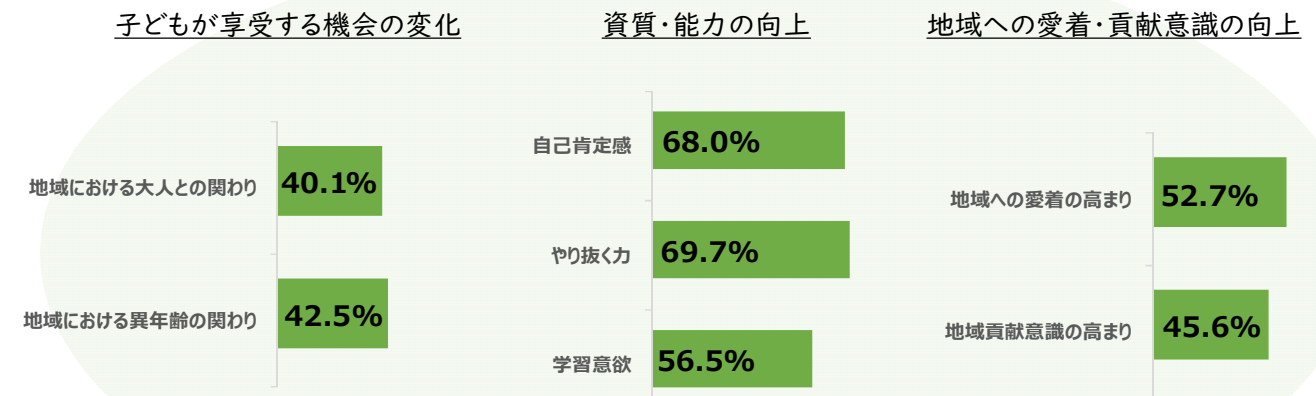
円グラフ凡例（外側から）：

今回 前回

※数値は今回結果



子どもへの効果

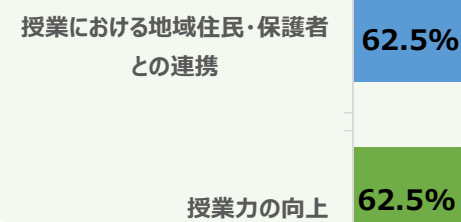


CS設置のねらいと関連付けながら、子ども調査（任意）の結果を確認し、取組の振り返りにお役立てください。

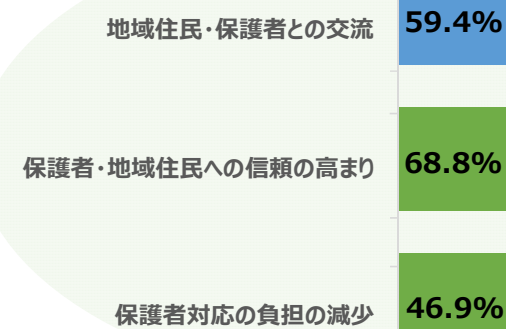
教職員 協議会の意義の理解

協議会の意義の理解 65.0%

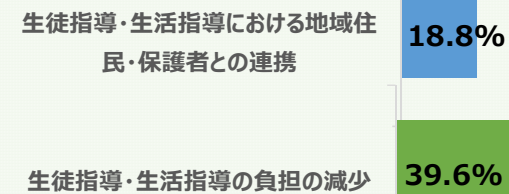
授業改善への寄与



地域との交流・信頼



生徒指導・生活指導の充実



教職員のCSへの意義の理解の高さと、教職員の活動、成果実感に関する指標の高さに相関関係が確認されています

協議会の運営【A領域】		自校の結果		結果の推移			メモ・備考欄 （結果を見ての感想・考察等）
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
自律性		80.0%				80.0%	自律性
協 2	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	85.7%				85.7%	
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	100.0%				100.0%	
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	28.6%				28.6%	
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	85.7%				85.7%	
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	100.0%				100.0%	
対等性		85.7%				85.7%	対等性
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	85.7%				85.7%	
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	71.4%				71.4%	
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	85.7%				85.7%	
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	100.0%				100.0%	
持続性		82.1%				82.1%	持続性
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	71.4%				71.4%	
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	85.7%				85.7%	
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	85.7%				85.7%	
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	85.7%				85.7%	
熟議度		71.4%				71.4%	熟議度
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある	71.4%				71.4%	
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	85.7%				85.7%	
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	57.1%				57.1%	
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	71.4%				71.4%	
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	71.4%				71.4%	
実行性		82.9%				82.9%	実行性
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感ずることがある	85.7%				85.7%	
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	100.0%				100.0%	
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	85.7%				85.7%	
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	71.4%				71.4%	
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	71.4%				71.4%	
共有性		75.0%				75.0%	共有性
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	28.6%				28.6%	
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	100.0%				100.0%	
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	85.7%				85.7%	
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	85.7%				85.7%	

教職員の意識【B領域】		自校の結果					メモ・備考欄 （結果を見ての感想・考察等）
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
協議会の意義の理解		65.0%				65.0%	協議会の意義の理解
教 2	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	81.3%				81.3%	
教 3	協議会での協議・決定事項に関心がある	81.3%				81.3%	
教 4	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	25.0%				25.0%	
教 5	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	75.0%				75.0%	
教 6	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	62.5%				62.5%	

教職員への効果（授業改善）		自校の結果					メモ・備考欄 （結果を見ての感想・考察等）
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
授業における地域住民・保護者との連携【C領域：教職員の活動】		62.5%				62.5%	授業における地域住民・保護者との連携【
教 7	地域との協働だからできる授業がある	68.8%				68.8%	
教 8	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	56.3%				56.3%	
教 9	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	50.0%				50.0%	
教 10	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	75.0%				75.0%	
授業力の向上【D領域：教職員への効果】		62.5%				62.5%	授業力の向上【D領域：教職員への効果
教 17	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	68.8%				68.8%	
教 18	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	62.5%				62.5%	
教 19	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	62.5%				62.5%	
教 20	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある	62.5%				62.5%	
教 21	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる	56.3%				56.3%	

教職員への効果（生徒指導の充実）		自校の結果					メモ・備考欄 （結果を見ての感想・考察等）
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携【C領域：教職員の活動】		18.8%				18.8%	生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連
教 11	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	18.8%				18.8%	
教 12	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	18.8%				18.8%	
生徒指導・生活指導の負担の減少【D領域：教職員への効果】		39.6%				39.6%	生徒指導・生活指導の負担の減少【D領
教 22	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる	37.5%				37.5%	
教 23	地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている	37.5%				37.5%	
教 24	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている	43.8%				43.8%	

教職員への効果（地域との交流・信頼）		自校の結果					メモ・備考欄 （結果を見ての感想・考察等）
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
地域住民・保護者との交流【C領域：教職員の活動】		59.4%				59.4%	地域住民・保護者との交流【C領域：教職員の活動】
教 13	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	68.8%				68.8%	
教 14	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	50.0%				50.0%	
保護者・地域住民への信頼の高まり【D領域：教職員への効果】		68.8%				68.8%	保護者・地域住民への信頼の高まり【D領
教 15	保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解してくれている	68.8%				68.8%	
教 16	保護者や地域の方は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	68.8%				68.8%	
保護者対応の負担の減少【D領域：教職員への効果】		46.9%				46.9%	保護者対応の負担の減少【D領域：教職
教 25	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	56.3%				56.3%	
教 26	保護者や地域住民対応の負担は大きくない	37.5%				37.5%	

子どもが享受する機会の変化【D領域】		自校の結果		自校の結果の推移			メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等)
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
地域における大人との関わり		40.1%				40.1%	地域における大人との関わり
子 3	学校の中で、先生以外の大人を見かける	49.0%				49.0%	
子 4	地域（さつま町）の人に褒めてもらう	44.9%				44.9%	
子 5	地域（さつま町）のお祭りなど地域（さつま町）の行事やイベントに参加する	54.4%				54.4%	
子 6	地域（さつま町）の人と一緒に、地域（さつま町）の行事の企画や準備に取り組む	31.3%				31.3%	
子 7	学校や家の近所で、地域（さつま町）の人のお手伝いをする	21.1%				21.1%	地域における異年齢の関わり
地域における異年齢の関わり		42.5%				42.5%	
子 8	地域（さつま町）の小学校や中学校の児童・生徒と交流する	36.1%				36.1%	
子 9	自校の、違う学年の人と交流する	49.0%				49.0%	

子ども：資質・能力の向上【D領域】		自校の結果		自校の結果の推移			メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等)
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
自己肯定感		68.0%				68.0%	自己肯定感
子 10	今の自分を気に入っている	61.9%				61.9%	
子 11	自分はやればできる人間だと思う	72.8%				72.8%	
子 12	学校の勉強は、よく分かる	69.4%				69.4%	
やり抜く力		69.7%				69.7%	やり抜く力
子 13	学校や地域（さつま町）でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある	68.7%				68.7%	
子 14	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している	60.5%				60.5%	
子 15	やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す	72.1%				72.1%	
子 16	困ったことがおきても、どうにかできると思う	77.6%				77.6%	
学習意欲		56.5%				56.5%	学習意欲
子 17	学校で習ったことや地域（さつま町）の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい	43.5%				43.5%	
子 18	新しいことをつぎつぎ学びたい	69.4%				69.4%	

子ども：地域への愛着・貢献意識の向上【D領域】		自校の結果		自校の結果の推移			メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等)
		今回	前回比	前々回	前回	今回	
		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	
地域への愛着の高まり		52.7%				52.7%	地域への愛着の高まり
子 19	地域（さつま町）の歴史や行事、地域（さつま町）で起きた問題に興味がある	32.0%				32.0%	
子 20	地域（さつま町）の中での活動や、地域（さつま町）の人と交流することは楽しい	68.0%				68.0%	
子 21	地域（さつま町）が好きである	73.5%				73.5%	
子 22	将来も地域（さつま町）に関わりたい	37.4%				37.4%	
地域貢献意識の高まり		45.6%				45.6%	地域貢献意識の高まり
子 23	自分も地域（さつま町）の人の役に立ちたい	59.2%				59.2%	
子 24	地域（さつま町）のために自分には何ができるか考えることがある	32.0%				32.0%	